

豊田市障がい者 総合支援センター



福祉

豊田市障がい者総合支援センター 活動報告「結 vol.11」を作成いたしました。
 総合支援センター各施設の取組をそれぞれ一つずつ紹介しています。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになれたらいいな
 と考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

(表紙の題字は、第二ひまわり 河合 雄輝さん)

豊田市障がい者 総合支援センター



豊田市障がい者総合支援センターは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」「たよりん」の5部門で構成しています。

豊田市から指定管理を受け豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、国・県及び豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目次

けやきワークス	1
工夫とアイデアでだれでも輝ける働く場を ～けやきワークスの自助具に関する取り組み～	
暖	3
活動紹介『アクト』 ～一人ひとりの「楽しい」を形に～	
第二ひまわり	5
飛び出せ！第二ひまわり ～地域の一員として～	
障がい者就労・生活支援センター	7
お久しぶりです！グループホーム喜多ハウスです☺	



工夫とアイデアでだれでも輝ける働く場を ～けやきワークスの自助具に関する取り組み～

はじめに

けやきワークスには、様々な障がいのある方が利用されています。苦手なことがあっても安心して仕事に取り組み、それぞれの方が力を発揮できるように、自助具（作業の助けとなる道具）を作っています。今回は、利用者の方の「働きたい」という気持ちを応援しながら、職員が工夫して作った自助具を紹介します。

取り組み 1

自動車部品を入れやすくする道具

横8センチ、縦15センチのポリ袋に、長さ4センチ程の細長い自動車部品を10個ずつ入れる作業があります（写真①）。利用者Aさんは自動車部品を入れる際に、袋の口が小さくて入れづらそうにしていたり、落としてしまったりすることがありました。

そのため、職員が塩ビパイプで自助具を作りました（写真②）。袋の口を自助具で広げてコップの中にセットすると、写真③のように自動車部品を入れやすくなりました。

写真①



写真②



写真③



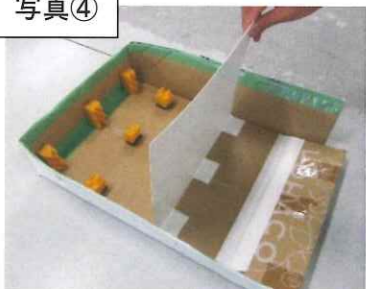
取り組み 2

部品を取りやすくする道具

こぶし大の自動車部品を袋に入れていく作業があります。前述のAさんは車いすを利用して、手の届く範囲が制限されてしまうため、作業を進めていくと部品が遠くに残って取れなくなってしまう。

そこで、段ボールとスポンジを使った自助具を作りました。段ボールで枠を作り、底板を1枚敷き、その底板の下にスポンジが入っているという写真④のような構造です。最初、部品がたくさん載っていると写真⑤の状態ですが、部品が減って軽くなると、部品の重さで潰れていたスポンジの形が元に戻り、写真⑥のように部品が手前に転がってくるようになります。「この自助具のおかげで、仕事がやりやすくなった」とAさんも喜んでくれました。（写真⑦）

写真④



写真⑤



写真⑥



写真⑦



取り組み 3

自動車部品を数えるための道具

自動車部品を10個ずつ袋に詰めていく作業があります。数え間違いを防ぐため10個数える道具を使っています。

多くの利用者の方は、主に〈自助具Ⅰ〉を使っています。利用者Bさんも初めは〈自助具Ⅰ〉を使っていました。しかし、加齢に伴い視力に課題が出てくるようになり、部品を10個並べられないことが出てきました。

そこで〈自助具Ⅱ〉を作りました。一列に並んだ穴を触って、10個漏れがないか指で確認できるようにしました。

しかし、部品が穴にぴったりくっついてしまうので「取り外しにくい」とBさんから相談がありました。今度は〈自助具Ⅲ〉のように、穴の周り数か所にビーズを貼り付けて、部品と自助具との間に隙間ができるようにしました。この工夫で、部品が取り外しやすくなり、作業に取り組みやすくなりました。

〈自助具Ⅰ〉



目が悪くなってから、間違えてしまう。手で触ってわかるように改良してほしいなあ…



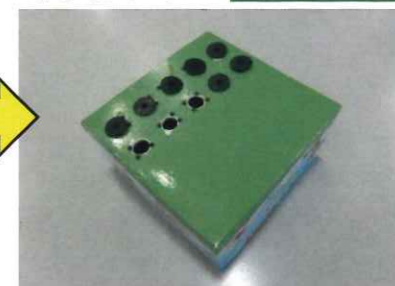
〈自助具Ⅱ〉



部品がぴったり引っついて取れない。もっと部品を取りやすくなるといいなあ……



〈自助具Ⅲ〉



これなら部品と自助具の間に隙間があるから、取りやすいし、わかりやすい！



おわりに

就労支援は、本人の「働きたい」という気持ちを最大限汲み取り、それを実現していく支援です。そして、求められる品質や納期に応えていくことも重要です。この2つを両立するために、自助具を工夫し改良を重ね、本人の力で品質の高い仕事の実現を目指しています。

どんな自助具を使うと作業の効率が上がるのか、使いやすいのか。それは、利用者の方一人ひとり違います。日ごろから利用者の方の声に耳を傾けて、使いやすい自助具の工夫も続けていきます。

活動紹介『アクト』

～一人ひとりの「楽しい」を形に～

暖は、重度の知的障がいと重度の身体障がいのある方が利用する生活介護事業所(通所施設)です。利用する方一人ひとりが、その人らしく充実した生活が送れるように、様々な日中活動サービスを提供しています。その中の一つ『アクト』をご紹介します。

Act? 『アクト』って何?

「アクト act」とは「行為、行動」の英語表記ですが、暖の活動『アクト』は、さまざまな活動を意味する「アクティビティ activity」と、活動的、能動的という意味の「アクティブ active」を合わせた活動名です。

「自分でアクティビティを選んで、自分からヒトやモノにアクティブに働きかけて、楽しもう！」という意図を含んでいます。そんな、レジャースポットのアクティビティのようにワクワクする活動を2001年の開設当初から、少しずつ活動の形を変えて行っています。



重度の障がいのある方は、日常生活で介助される(自分の体を他者に動かしてもらう)ことが

多く、特に大人になると、自分から体を動かす機会はとてまもなく少なくなります。受け身になる場面が多い利用者の方が、アクトの時間は、ブランコやエアートランポリンやボールプールなど、全身で感覚を味わえる器具を利用して、自分からヒトやモノに働きかけて楽しめます。ブランコの揺れ、エアートランポリンの浮遊感や振動、ボールプールの密着感、ボールスライダーのスピード感から、コミュニケーションも自然に生まれます。

Actで 大切にしていること

普段の生活では味わえない感覚が楽しめる活動ですが、利用者の方一人ひとりの好きな感覚は違うため、それぞれに合わせて、安心して楽しんでもらうことを大切にしています。

身体障がいのある方に、動きを楽しんでもらうためには、ご本人が安心できる安定した姿勢をサポートすることが大前提になります。どんな姿勢でどんな動きを楽しむか、一人ひとりに合わせた工夫が必要です。ブランコの例を紹介します。

Aさんは丸太のブランコに座れますが、背中側を支える布ベルトを2本(胸の高さと腰の位置に)付けるとより安心して揺れを楽しめます。

Bさんは大きな板ブランコに載せたクッションチェアに座って、Cさんはいつもベッドで寝ている姿勢で、揺れを楽しみます。揺れながらも安定した姿勢を保てるように、クッションやタオルケットなどで体全体を包み込むようにしています。



Actから生まれる コミュニケーション

アクトでは、支援者が利用者の方々と一緒に楽しみながら、利用者の方の動きを支援します。利用者の方は、目を大きく見開いたり、笑顔になったり、大笑いしたり、様々な反応を見せてくれます。言葉を発することができなくても、好きではない動きには、顔をしかめたり、手で払いのけるような仕草

をしたりします。おもしろいと感じれば、「もっとやりたい」と支援者の手を引っ張ったり、支援者をじっと見つめたりして伝えてくれます。

利用者の方が発する声や表情、仕草のちょっとした違いに、支援者が気づき、対応を繰り返すと、利用者の方の意思表示が的確に汲み取れるようになります。そうすると、利用者の方も、自分なりの方法でいろいろな気持ちを伝えてくれるようになります。



もっと大きく揺らしていいですか?
(「うん」とうなずき、見つめる)
どうですか?(「うんうん」とうなずく)
揺れを止めますよ～(見つめる)
揺らしますよ～(「ぎゃはは」と笑う)



ボールプールに入りませす(ニッコリ笑顔)
ボールに包まれましたね～(満面の笑み)
バケツにも入れます、いい音ですね(ボールを握り笑顔)



動きますよ～、それ～(笑顔、「楽しいです」)
Dさん行きますよ～、3,2,1,ゴー
(笑顔、笑い声、ハイタッチ)

これからも ワクワクする活動を

開設当初は20代だった利用者の方も40代になり、加齢に伴う様々な変化が始まっています。また、日常的に医療的ケアが必要な重症心身障がいの方を主に受け入れているため、自分から動くことが困難な方が増えています。

それでも、これまでに培った『ともに楽しむ力』を存分に発揮し、状況に合わせた工夫をして、暖を利用される方々のそれぞれの楽しみ方を見つけていきたいと思ひます。アクト以外の時間でも、アクティビティの選択肢を増やして、利用者の方々がアクティブに楽しめる活動を提供していきます。

飛び出せ！第二ひまわり

～地域の一員として～

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が5類感染症に移行し、外出活動や施設内での全体活動、実習生やボランティアの受入れなどが再開できるようになりました。人との関わりが増え、利用者の方の笑顔がより多く見られるようになってきました。

再開した『グループ会食会』では、昼食を楽しむことに加え、公共施設などの社会資源を利用して、利用者の方の興味・関心のある活動に取り組みました。また、『ひまわりバンド』もイベント参加を再開でき、音楽を通して会場全体がひとつにまとまる喜びを感じました。

今回は、この2つの活動を紹介します。

グループ会食会

グループ会食会は、4～5名の少人数のグループで、外食と外出活動を楽しむことを目的としています。興味・関心が似ている方たちでグループを作り、外出先を決めています。写真は、「豊田スタジアム」と「ららぽーと愛知東郷」へ外出した2つのグループです。



スタジアムの観客席



ゲームセンターで太鼓の達人！



景色のいいレストランで昼食



大きな綿菓子！



念願の
オムライス！



スポーツプラザの前で全員集合！

約3年ぶりの外出で、みなさんとても楽しまれていました。ランチとともに、豊田スタジアムではプール、ららぽーとではゲームセンターも利用しました。久しぶりの楽しい時間を満喫してきました。

ひまわりバンド

第二ひまわりには、「ひまわりバンド」という演奏チームがあります。



コロナ禍の3年間は、施設内で小グループでの音楽活動を続けていましたが、コロナ5類移行後は、外部からの演奏依頼も再び増えてきました。

7月には、地元企業主催のイベントで、オープニング演奏をしました。

この企業からは5類移行を見越して早くに依頼があり、バンドのメンバーにイベントでオープニング演奏ができることを伝えると、とても喜んでいました。

4年ぶりのイベントに、メンバーも練習に気合が入り、本番は最高の演奏で、イベントを盛り上げることができました。改めて音楽の楽しさや観客の前で演奏できる喜びを感じることができました。



コロナ禍を通して気づいたこと

コロナ禍は3密（密集・密接・密閉）を避けて活動し、いま少しずつ日常が戻って、改めて気づいたことがありました。それは、人と人のつながりの大切さ、新たな出会いの喜び、社会資源を活用しての経験など、地域の一員として人と関わりながら暮らしていく幸せです。

「第二ひまわりみんなで行事をしたい」「調理実習をしたい」「外出をしてご飯を食べたい」「実習生に来て欲しい」

利用者の方一人ひとりの想いを実現しながら地域で暮らしていく幸せを、みなさんと一緒に創っていきたく思います。



お久しぶりです！ グループホーム喜多ハウスです😊



みなさん、この建物に見覚えありませんか？喜多町という都会にありながら、レトロで風情のある控えめなたたずまい…そうです、約4年ぶりに登場のグループホーム喜多ハウス(※)です！

4年前はここにお住まいのすばらしい利用者さんを紹介しました。今回は、その利用者さんを支える“世話人さん”について、みなさんに知っていただこうと思います。

※グループホーム喜多ハウスとは、知的障がいのある方が必要な支援を受けながら、地域の中で共同生活を送る住まいのことです。

🔍世話人のお仕事🔍

1日目

- 16:30 出勤
前日の日報チェック
夕食準備
帰宅した利用者さんと団らん
- 18:00 夕食 服薬管理
お風呂の準備
夕食の片付け
お風呂そうじ
館内見まわり
- 21:00 日報記入



2日目

- 05:30 朝食準備
- 06:00 朝食 服薬管理
- 07:30 朝食の片付け
そうじ
(台所、トイレ、玄関、廊下、階段、世話人の部屋)
草取り、洗濯
- 09:00 勤務終了

🗣️世話人インタビュー🗣️

世話人を始めたきっかけ



- ・やったことのない新しいことをやろうと思った。
- ・社会に何か役立てないかと思った。
- ・福祉関係の勉強をした後、人生を切り替えるタイミングだった。
- ・障がいのある方と働いた経験があったのと、料理を食べてもらうことが好きだった。

やりがいを感じる時



- ・「ただいま」の笑顔がうれしい！
- ・利用者さんのひたむきさ、人間らしさに癒される。
- ・毎日の料理は大変だが、「おいしい」と完食してくださったときは、し・あ・わ・せ♡
- ・おしゃべりをしながら、「やろうか？」と手伝ってくださるとき。
- ・朝ドラの感想を話しながら談笑しているとき。

喜多ハウスのココがすばらしい!!



- ・おいでん花火がよく見える。眺めが抜群！
- ・支援者同士の職種を越えたチームワークの良さ！

何と言っても利用者さんが…

- ・お手伝いをしてくださり、助かっています!!
- ・個性豊かな利用者さんが、とてもすばらしい!!

おわりに

世話人の方の一人ひとりの思いには違いはありますが、利用者の方の暮らしやすさを一番に考えているという点は、みな同じです。これからも喜多ハウスが、笑顔あふれるグループホームでいられるように、職員一同、日々努力していきます！



活動報告 vol.11

「結」

2024年3月発行

豊田市障がい者総合支援センター

<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>